

このために、全幅的な努力がなされ来た。

#### ロ、統一の方策

##### 一、日本労働組合会議内における活動

日本労働組合会議内における右翼的偏向とファッショ的傾向に對しては凡ゆる機会に闘かなくてはならぬ。然し乍らこれ等の傾向と戦ふといふことは、これ等を會議の外に出すことできなく、熱心にして誠實なる手段を以つて矯正すべき立場に立たなくてはならぬ。

一方統一主體としての確立のために、組合會議加盟組合間の産業別整理を促進し、全國的産業別組合を集結したるところの強力なる同盟體をたらしむるために、組合會議加盟團體間の産業別協議機關及地方協議會の設立に努力しなくてはならぬ。

一方社會大衆黨の支持を組合會議をして決定せしめ、加盟各團體の渾然一致したところの強力なる闘争主體として完成するために吾々は常に全力的努力をなし他團體との協力によつてこれが實現を計からなくてはならぬ。

これらの機關が設立せられ各地方、各地域における各組合の組織と組織との結合が緊密になることこそ、凡ゆる傾向其他の障害が排除せられて行くであらう。

又一方においては組合會議加盟單位数を増加し以て

合の不信認の意識を植付け、組織の擴大の限界は狭めらるゝに至るであらう。

##### 二、部分的統一の排除

全的統一の運動が進展し尙種々なる方策によつて産業別又は資本別的な線において、團體間の諸組織の結合が生じたるときにおいて、其の結合を生じたる兩者間のみの統一合同がやゝもすれば計かられんとするものである。

然かも此の部分的統一をもつてやゝもすれば統一運動の全體性を把握したるか如き觀念にとらはるゝ結果となる。このことは統一をのぞみながら、反對に部分的統一によつて全體的統一への進展を阻止するところの結果を生ぜしむるのである。従つて全體的統一の前には部分的統一の利益を犠牲とすべきは止むを得ざることである。

唯部分的統一が全的統一を進展し、其の統一が闘争力を強化し得るときには、勿論部分的統一を拒むべきでない。

#### 四、結論

吾等は以上の方針によつて労働組合の全線的統一を可及的短期間の中に完成し、労働大衆の勢力を擴大し、政治的に經濟的に壓力を加ふところの資本主義に對し、有効適切な闘争を敢行しなくてはならぬ。

少數團體の存立を整理統一するための工作がなされ、全國的横斷的組織並に全國的産業別組合の強化がなされなくてはならぬ。

##### ハ、其他の労働團體に對する活動

組合會議と組合會議に加盟せざる諸團體との間を結合するためには、吾が全勞のみが其の任務を遂行し得る。

過去に於ける統一運動の失敗と、統一運動が反つて分裂を生じた原因は、自己の立場方針等を他へ強制のために民主的中央集權制を無力にして組織内における紛争を招き又は團體間の信義を不信ならしめたるところに其の一部分の原因が存する。

かゝる統一を破壊するところの傾向の清算を吾等は要求し、一方ますゝ隔離せんとするところの組合會議諸團體との融和統一に努力しなくてはならぬ。

このために吾等は全國的産業別組合を確立に賛意を表すところの一切の労働團體を糾合して産業別協議機關への設立へと急がなくてはならぬ。

この任務の遂行には幾多の障害があり容易にして成果を擧ぐる事が出来ないであらう。然しこの任務の遂行がなかくしては、吾國における職線の分野は窠つかの形において固定しこれ等の對立は、必然的に全労働者に對して労働組

#### 内部組織擴充方針

##### 一、

資本主義下に於ける労働組合の擴大強化——それは運動の最も端緒的、根本的な問題であると同時に亦最後の左問題でもある。なぜならば言ふ迄もなく歴史的必然性に立脚せる無産階級運動の闘争部面に於ける、基礎的組織體としての労働組合は、その使命遂行の上に「闘争力」の強化擴大を絶対必要としてゐるからである。随つて過去に於てそうであつたと同時に、現在も亦將來に於ける人會その他で論ぜられ叫ばれる一切の問題も廣い意味から云つてこの「擴大強化」の上に論ぜられ、亦常にそれが繰返されてゐる。又繰返されなければならぬ。——それでいゝのである——即ち擴大強化それ自身が一つの闘争である。だが問題をかく見る時、それは極めて廣汎なものであり複雑でもある。だからこゝでは問題を「特に組合内部の充實」の爲めに左の諸點に限定して取扱ふことにする。

##### 一、部門活動について

##### 二、一般財政の確立について

##### 三、争議基金について

##### 四、調査活動について